

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

会社名： BASF ジャパン株式会社
住所： 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー21階
担当部門： 農薬事業部 開発登録部
FAX番号： 03-3796-9417
緊急連絡先： 0120-014660(フリーダイヤル) 案内に従って選択
(財)日本中毒情報センター (事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)
中毒110番 一般市民専用電話 (大阪) 072-727-2499 (情報料無料)
365日 24時間対応
(つくば) 029-852-9999 (情報料無料)
365日 9~21時対応
医療機関専用電話 (大阪) 072-726-9923 (1件2000円)
365日 24時間対応
(つくば) 029-851-9999 (1件2000円)
365日 9~21時対応
医療機関の方が一般市民専用電話を使用された場合も、情報提供料1件につき
2000円を徴収します。

整理番号： 30287170/SDS_CPA_EU/EN_JA

作成日： 2006年12月08日

改訂日： 2011年01月25日 ver 5.0

製品名(化学名、商品名)： BASF ペイオフME液剤

2. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

化学物質名	含有率 (%)	化学式又は構造式	官報公示整理番号 化審法/安衛法	CAS No.
フルシトリネート (RS)- α -シアノ-3-フェニルプロピル = (S)-2-(4-ジフル ロメチルフェニル)-3-メチルブチレート	4.4	$C_{26}H_{23}F_2NO_4$	4-(7)-1473	721024-77-5
その他、補助成分	95.6			

フルシトリネート： 毒物劇物取締法(劇物)、労安衛法(通知物質)

3. 危険有害性の要約

[GHS 分類]

物理化学的危険性	引火性液体	区分 4
	自然発火性液体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分 3
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入、ミスト）	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼への重篤な損傷・刺激性	区分 2B
	皮膚感作性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分外
環境に対する有害性	特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分外
	水生環境有害性（急性）	区分 1
	水生環境有害性（慢性）	区分 1

[GHS ラベル要素]

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性液体

飲み込むと有毒

眼刺激

水生生物に非常に強い毒性

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

(予防対策)

使用前に取扱い説明書を入手すること。粉塵／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。環境への放出を避けること。この製品を使用する時に飲食、または喫煙しないこと。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。必要な個人用保護具を使用すること。取扱い後は多量の水と石鹸でよく洗うこと。

(緊急対応)

気分が悪い時は医師に連絡すること。流出物を回収すること。暴露または暴露の懸念がある場合は、医師の診断／手当を受けること。吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。飲み込んだ場合は、口を漱ぐこと。

(保管)

施錠して保管すること。

(廃棄)

適切に分別した内容物 / 容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に廃棄を委託すること。

4. 応急処置

飲み込んだ場合：

直ちに口をすすぎ、多量の水を飲ませて、直ちに医師の手当を受ける。意識不明の場合及び痙攣時には嘔吐させることや口からものを与えることは避ける。医師の手当てを受ける。

眼に入った場合：

直ちにまぶたを開き流水で15分以上洗い流した後、眼科医の診察を受ける。

皮膚に付着した場合：

汚れた衣服を取り替え、直ちに水と石けんで十分に洗い流し(15-20分間)、刺激があれば医師の手当を受ける。本剤は他の合成ピレスロイド剤と同様に、皮膚に感覚異常、特に顔面のしびれ、刺痛又は激痛(24時間以上持続しない)のような様々な知覚異常を引き起こす可能性がある。患部にオリーブオイルを塗布すると刺激を軽減することができる(オリーブオイルの塗布前に患部を石けん水で洗浄後乾燥させておくとより効果的である)。

吸入した場合：

新鮮な空気のある場所に移動させ、安静に保ち呼吸を楽にさせる。必要に応じ、呼吸補助器(人口呼吸器)を用いる。医師の診察を受ける。

その他：

医師への注意：少量を飲み込んだ場合、既に嘔吐した場合、または処置が遅れた場合は活性炭またはソルビトールの経口投与を考慮する。大量を飲み込んで1時間以内の場合は胃・腸洗浄を考慮する。治療には合成ピレスロイドの中毒に有効とされるメトカルバモール製剤が有効であることが動物実験で確認されている。その他症状に応じた治療を行う。

解毒剤：メトカルバモール製剤

5. 火災時の措置

消火方法：

関係者以外の立ち入りを禁止し、下記に記載する消火剤を用いて消火する。化学物質の流出を防ぐために土手を築く。スプレー式又は噴霧式消化器を使用する。水の使用はできるだけ少量とする。固体式の強い噴流は物質を拡散する恐れがある。

消火剤：

水、二酸化炭素、消火泡、化学消火剤等

防護服等：自給式陽圧呼吸器及び防火服を着用する。

その他：

一酸化炭素、二酸化炭素、フッ化水素、窒素酸化物などが発生する恐れがある。火災現場から発生した粉塵、蒸気及び煙を吸入しないように注意する。火災に接触する容器には水を撒いて熱が高くないようにする。人又は装置の除染除去、破損したダンボール箱もしくは容器等を取り扱う場合には「暴露防止措置」の項で指定した保護具を着用すること。消火作業にあたった者は、火災現場を離れる前に、石けんおよび水でよく除染すること。火災現場より流出した水は回収し、排水経路に流れ込まないように注意する。火災の残骸物や消火水は公的な規制に基づいて破棄する。排水経路に流れ込んだ場合は下流の関係機関に連絡すること。

6. 漏出時の措置

人的注意：

適切な防護服および防護具を着用する（「暴露防止措置」を参照）。眼、皮膚、衣服への付着を避ける。衣服や靴などが汚染した場合には直ちに着替える。

環境への注意：

漏出物が排水系、地上水、地下水及び土壌へ流出するのを防ぐ。地域の法令に従い、環境中へ流出した数量等について関係所轄に連絡する。

漏出物の処理：

漏出物の流出を防ぐために土手を築き、漏出物は不活性吸着物（粒状クレーまたはおがくず等）に吸着させ、シャベルで救い出すかまたは拭き取り、適切な廃棄容器に要れて密封する（「廃棄上の注意」を参照）。漏出した場所及び使用器材は石けん水で数回洗浄する。洗浄液は拭き取るか、又は上記の不活性吸着物に吸着させて漏出物と同様に廃棄する。土壌への漏出量が少量の場合は、シャベルで直接土壌をすくい、廃棄用容器に入れる。漏出量が多量の場合は担当部門／緊急連絡先に連絡して有効な浄化方法を聞く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

医薬用外劇物。ラベルに従って使用すること。作業場の換気を十分に行い、暴露防止の項に示した防護具等を着用する。作業後は顔と手を良く洗う。

保管：

容器は密閉し、熱源や直射日光を避けて乾燥した換気の良い冷暗所に保管する。安全な場所で、食品または飼料と一緒にせず、子供の手の届かない場所に保管する。

その他：

凍結後、融解した際には分離することがあるので、使用に際してはよく器をよく振ること。

保存安定性：3年間安定

原則として40℃以上で保管しない。もし、本製品を上記指示以上に長期間保管すると製品特性が変質する恐れがある。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度：ACGIH(TLV) フルシトリネート：時間加重平均 1 mg/m³

最終消費者の手に渡る農薬を取り扱う際には、製品のラベルに従い使用すること（「15. 適用法令」参照）。また、研究所従事者は研究所の規則に従い、工場従事者は以下の保護具を着用する。

設備対策：局所換気装置などで作業場の換気を十分に行う。緊急時のため、作業所には洗眼及びシャワーを備える。

保護具：

保護眼鏡：サイドシールド付き保護眼鏡（EN166 準拠）

保護手袋：保護手袋（耐薬品性、EN374）ニトリルゴム（0.4mm）、クロロプレンゴム（0.5mm）、ブチルゴム（0.7mm）等

身体の保護具：作業及び予想暴露量に基づいて保護具を選択すること。前掛け、保護靴、耐薬品性保護衣等（DIN-EN465）

一般的な安全衛生管理上の手段：

皮膚、眼及び衣服への直接の接触を避ける。密閉された作業着を着用する。衣服に付着した場合は直ちに着替え、安全に廃棄すること。作業着は分けて保管することが望ましい。食料、飲料及び家畜飼

料からは分けて保管し、作業所での飲食及び喫煙も避けること。作業終了または休憩時には顔や手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観等： 青色澄明水溶性液体
比重： 1.02 g/cm³ (20)
引火点： 66.3 (セタ密閉式)
動粘度： 11.6 cSt (62.6 において)
凍結点： -12
pH 値： 5.3 (20)

10. 安定性及び反応性

安定性：通常取り扱いにおいて安定である。
反応性：通常取り扱いにおいて安定である
避けるべき条件：確認されていない。
避けるべき材料：確認されていない。
有害な分解物：通常取り扱いにおいて確認されていない。

11. 有害性情報

急性毒性：

LD₅₀ (ラット、経口、雌)：50～300mg/kg

LD₅₀ (ラット、経皮、雌雄)：2000 mg/kg 以上

刺激性：

皮膚刺激 (ウサギ)：軽度刺激性あり

眼刺激 (ウサギ)：中等度刺激性あり (6日後までに回復)

感作性：

皮膚感作性 (モルモット、Buehler 法)：感作性なし。

12. 環境影響情報

LC₅₀ (コイ)：7.8 μg/L (96 時間)

EC₅₀ (オオミジンコ)：16 μg/L (48 時間)

EbC₅₀ (藻類)：92 mg/L (0-72 時間)

ErC₅₀ (藻類)：100 mg/L 以上 (0-72 時間)

環境中への排出については、環境法令や規制・基準に従って適切に処理する。

13. 廃棄上の注意

国内の法令に従って処分する。

14. 輸送上の注意

運搬に際し、容器の漏れのない事を確認し、落下、転倒、衝突を避ける。取扱い及び保管上の注意の項に留意する。

15. 適用法令

農薬取締法：登録番号 第 21856 号

労働安全衛生法：名称を通知すべき物質

毒劇法：劇物（指定令第二条 32）

消防法：指定可燃物（可燃性液体類）

化学物質管理促進法（PRTR）：該当しない。

参考情報（欧州連合の規制）

有害性シンボル：T、N

R-phrase：R25、R50/53

S-phrase：S(1/2)、S13、S20/21、S45、S35、S57

16. その他の情報

引用文献；B A S F 安全データシート（30287170/SDS_GEN_EU/EN）

記載したデータは現在の弊社の知識に基づくもので、本品の諸特性を保証するものではありません。

現行の法規・条例など自己の責任において厳守して下さい。また、本製品情報は随時更新されます。

17. 改訂履歴

作成日：2006年12月08日 Version 1

第1回改訂日：2007年04月05日 Version 1-2

第2回改訂日：2008年01月17日 Version 2

第3回改訂日：2008年10月03日 Version 3

第4回改訂日：2009年10月01日 Version 4

第5回改訂日：2010年01月15日 Version 4.1

第6回改訂日：2011年01月25日 Version 5.0